

## SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業

### 2020年度「ESDプログラム」ガイドブックができました



2020年度のESD地域リーダー育成事業の集大成となる「ESDプログラム」ガイドブック 2020年度版ができました。

今年度は、千葉県の南部地域で活動されている方を主な対象として、市原市と南房総市で開催し、それぞれ9名、8名のみなさまにご参加いただきましたが、共同制作も含め、16のプログラムが作られました。

それぞれのプログラムについては、次ページにご紹介しましたのでご覧ください。対象とした分野で見ると、地球温暖化/エネルギー：2、水循環：1、生物多様性：9、その他：4 となり、どのプログラムも大変面白い視点から考えられています。

今年度も20名のサポーター（2018、2019年度の地域リーダー）の協力のもと、グループワークの時間では、第1回目の初対面のときから活発な意見交換や情報交流が行われました。また、参加者同士の交流も盛んにおこなわれ、プログラムコラボにも発展しそうな方たちも出てきました。この事業ではESDプログラムづくりそのものが目的ではなく、プログラムづくりを通して、お互いに学び合うことが大切なので、そういう観点からもこの事業の趣旨が解りあえたのではないかと思います。

ガイドブックにはファシリテーターの石井雅章氏（神田外語大学）が、初年度から「ESDモデルプログラムづくりの流れとプログラムシートの読み方」について書いてくださっています（p2～p7）。ユニークなのは、2018年度、2019年度、2020年度、と進むとき、それぞれ前年度のものも活かし、付け加える形で書いてくださっているところです。すなわち、3年目の2020年度版には、「2018版に寄せて/2019版に寄せて/2020版に寄せて」となっています。

これを続けてお読みいただくと、3年間のこの事業が単なる繰り返しではなく、事業そのものが成長し、深化していることが見えてきます。最初は、今までのプログラムをどのようにしたらESDプログラムにできるのか、ということ、みんなで迷いながら、悩みながら考えてきましたが、3年目の2020年度は、サポーター側もだんだんわかってきて、アドバイスの仕方など変化してきました。なので、初めての参加者もESDプログラムをつくれたようです。ファシリテーターの石井氏の適切なご指導とともに、サポーターの力も大きかったと思います。

2020年度版ガイドブックには、3年間に作成したESDプログラムを一覧表の形で整理してみました（p56, 57）。プログラムのタイトルとともに、対象とした分野と発展しそうな分野に★と☆をつけています。どのプログラムも当初の対象分野からいろいろな分野に発展する可能性があることがわかります。いろいろな分野に発展できるプログラムこそ、まさに「SDGs達成のためのESDプログラム」となり、良いESD地域リーダーが育ったということになります。今後は、このESD地域リーダーの活躍が期待されます。

※2018年度～2020年度版ガイドブックは、以下からダウンロードできます。

<https://kanpachiba.com/sdgs-esdprogram>

### ESDとは

ESD (Education for Sustainable Development) とは、「一人ひとりが世界の人々や将来世代の持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育のこと」を言います。

具体的には、単なる知識の習得や活動の実践ではなく、日々の活動の中で『持続可能な社会づくり』を頭におき、そのために必要な能力・態度を身に付けるための工夫を継続していくことです。

『持続可能な社会』とは、将来の子どもたちも含め、みんなが幸せに暮らせる社会です。各課題の構造（多様性、相互性、有限性）や、行動が備えるべき要素（公平性、連携性、責任性）を正しく理解した上で、その実現に向けて行動することが必要です。

あなたの取り組みをESDの視点でとらえてみましょう。

# ESD の視点を入れたプログラム集 2020 (ESD地域リーダー育成事業 2020 年度活動のまとめ)

学習テーマ	地球温暖化・エネルギー		水循環	生物多様性			
プログラム名	地球温暖化と 1.5℃目標 ～持続可能な地球のために一人一人が考え 行動しよう～	生ごみ、「キエーロ」で消 えーろ	生命の源・水と旅して 水マップをつくろう！	里山の自然に触れてみよう	オケラとトトキ (山で美味しいを体験する)	私たちが生きていくために大切な 森。森から見えてくるもの(森と生 物多様性と災害と地球温暖化)	一番身近な里山《竹林》の 整備と活用
対 象	中学生及び小学校高学年	地域住民	一般	小学 6 年生	小学生以上	小学 5 年生～中高生	小学生から社会人まで
教科／分野	総合学習、理科	資源・ごみ		総合学習(理科・社会)	自然環境	総合学習(理科・社会)	竹林(里山)整備
授業時間数	45 分 or 90 分	2 時間 15 分 + α	1.5 時間 × 4 回	年間 8 回・各 120 分	2 時間	12 時間	2 年間(年 10 回、合計 20 回)
場 所	学校の教室、体育館、共通教室 (視聴覚室等)	集会室	室内、椎津川上流、河口干潟、浄干 潟	里山・学校	安馬谷青年館及び安馬谷里山 (南房総市)	このプログラムができる森、室内	長南町、長柄町
プログラムの特 徴	行動変容シートを用いることで、自 身が地球温暖化対策に取り組む ことができるという感覚を得ること ができる	・「キエーロ」を制作するという 実践を通して地球温暖化防止 に寄与する。	参加者それぞれが体験や対話から、 自由に感じ、学び取ることを目指す。 また、自分が住んでいる身近な自 然、生活の中の自然(水)で学ぶこと で、ふるさとの自然に触れ、愛着が 生まれる機会となる。	・総合的な学習(環境学習)として一 年を通して季節毎の里山の変化を 体感できる。 ・一年の最後に、体験し記憶に残 ったことをベースに、「里山活動ま とめの発表」を行う	自然の中で生育する植物の観察 力を身につけ、食用になる植物を 見つけて、食生活を豊かにする。	・3種類の健全な森林とそうでない森を見 学して比較し、森の持っている機能を考 えることができる。 ・地元の里山活動などへの参加は、森林 を守る。そして地球を守ることにつな がることを知り、行動につなげる。	・伐採整備するだけでなく、素材の活用、 販売まで考える必要があることを実際に体 験してもらう。 ・トレーサビリティを確保するために長期の 整備期間を設定。(実際は2年ではなく半 永久)
目 標	地球温暖化による影響は将来、 増々深刻になっていくが、影響を 最小化するシナリオがあることを伝 え、学習者が地球温暖化に対して 強い関心を持つことにより、自分 なりに何ができるのかを考え、行動し ていくきっかけとする。	・生ゴミ処理器「キエーロ」の原 理と有効性を知る。 ・「キエーロ」を作成する。 ・「キエーロ」を使って生ゴミを 処理する。	学習者が自分の生活及び足元の自 然における水循環を体感する。 学習者が地域の森川海に親しむ体 験をする。 流域(集水域)を理解し、水害が起 る仕組みを体感する。	・学習者である子供たちが、山は 生きているということを知り、良好な 自然環境を維持し守ることが、自 分の生活(人間の営み)を守ること につながることを自分自身で考 えるようになること。	学習者が安馬谷里山を含む安馬 谷の食の恵みを知る。 学習者が環境保護の担い手にな る。	・森の違いを見比べることにより、現実を 実感し、森の役割、森の保全、生物多 様性について考える。 ・未来をつかさどる子どもたちが、プロ グラムを通じて「持続可能な森づくり」 には何が必要なのかを皆で考える。	竹(竹林)から、日本の民族文化と暮らしを 知る。 竹は管理次第で、持続可能な生活素材や 食材となることを体感し、竹素材の可能 性を学習する。 日本の暮らしの原点である里山再生の第 一歩とする。
協力団体	アースドクターふなばし	NPO 法人南房総エコネット	みらい seeds(椎津川水系と里山を愛 する会)	SaToYaMa よくし隊	安馬谷里山研究会	東京大学千葉演習林ボランティア会 Abies	一般社団法人もりびと

学習テーマ	生物多様性					そ の 他		
プログラム名	谷津田再生と生かす活動 (古代米づくり)	野鳥を呼び込んで 観察しよう	もしもツアーズ～もしもわたし がこの森の住人だったら～	ぼくらが作る生物空間	子どもたちによる水辺の 生き物観察会	花のある街を作ろう	五感を感じる森林浴 innerjourney	昔の暮らしは持続可能な暮 らし、体験
対 象	幼児から中学生(親子中心)	小学 4 年生	小学 1～3 年生	小学 4, 5, 6 年生	幼稚園～小 6 と保護者	大人(興味のある人)	大人(親と未就学児:親と子は別々の 体験)	SDGs を学びたい小中学校の教 員、子供会の指導者
教科／分野	里山の自然を生かす活動	理科(「季節と生物」)	総合学習	総合学習	理科/自然観察	植栽による環境活動	保健体育・メンタルヘルス・癒し	
授業時間数	4 時間	2 時間(4～5 月頃)	4 時間 30 分(昼食含む)	1 回あたり 90 分(年間を通 して実施)	1 時間 30 分	2～3 回(各 2 時間)	150 分	10 時間(1 泊)
場 所	千葉市若葉区谷当町の一角 「堂谷津の里」	工作室、校庭 等	森林公園、広場、公民館等	東金市油井前後谷・学校 周辺の里山	丸山川上流(千葉酪農のさと付 近)	公民館・集会場、屋外・花壇	大房岬自然公園 or 富山 or 観音山ほか (森林セラピー基地)	南房総市和田町 自然の宿くす のき周辺
プログラムの特 徴	・泥んこ体験ができる。 ・古代米3種の田植えを体験 できる。 ・生かす、植物を観察するだ けでなく、描いてみることの表 現ができる。	既存のツバメの巣の観察で はなく、巣箱を作成してカメ ラを内装し、適当な場所に 設置することにより、野鳥の 子育ての様子を確実に観察 できる。	・子どもたちが動物や植物の視点 で森を探検することにより、森を 身近に感じることができる。 ・地域の森の豊かさ、今抱えて いる問題を知るきっかけになる。	・四季の里山の変化を知 る。 ・協力して土を耕し、作 物を育てて収穫する。 ・里山の枝木で火をおこ し、調理して食べる。	自然の中に身を置き、そこに生 息する生き物を発見すること で、楽しみながら自然の大切さ を学習できる。	花を愛でる心を醸成でき る。 地域の自治会と連携でき、 将来的にはサークル活動の ように取り組める可能性が ある。	・親のみ、子のみで別のプログラムを体 験する。 ・瞑想やマインドフルネスを入れ込み、 メンタルヘルスの向上を明確に意識し た森林浴プログラム(今の自分の状態 に気づく)となっている。	竹にフォーカスし、暮らしのす ぐ近くで、自然が生産する素材 で、使えるものを造り、使用後 はまた自然に返せるというプ ロセスを、楽しみながら体験で きる。
目 標	・里山保全や谷津田再生の重 要性を理解する。 ・泥に触れる喜びが感性を豊 かにする。 ・田んぼにいる生き物の多様 性に気づくことができる。	季節の変化と動物、植物の 活動、成長の関係を理解す る。 森林の保全と動植物の生態 の関係を理解する。 鋸や金槌などの工具を使っ て、安全に木工作をすること ができる。	・動物、鳥、虫、へび、などの森 の住人や森で起きていることを知 る。 ・自分なら何が出来るか考えられ るようになる。 ・ワクワクして未来を作ってい けるようになる。	・学校周辺での里山体験 を通じて、生きるとは何 か？を問い直すことがで きる ・地球と人類の健全な発 展に何が重要か？を考 えることができる	・川にはさまざまな生きものが 生息していることを実感する。 ・川の生き物を調べることで水 質調査ができることを知る。 ・川の水質を保つことの重要性 を理解する。	・花のある風景が、街への関 心を高めるきっかけにな り、それを実現し維持する 事は、人々の活動や協力に よって支えられている事を 理解する。 ・標語「育てよう豊かな心と ペチュニアを」	・参加者が自身のメンタルヘルスを向 上させることができる ・参加者が森林浴を通じて森や自然の ことを知るきっかけになる ・参加者が社会とつながることの意味を 知る	・プラスチックに頼らない生活 を考えるきっかけとなる。 ・造る責任、使う責任について 体験しながら考える。 ・昔の暮らしの中に、これからの 自分の生活に活かせること があると理解する。
協力団体	NPO 法人バランス 21	いすみ市東小学校	ガールスカウト千葉 83 団	ときがねウォッチング	NPO 法人南房総エコネット	さくらさくらを育てる会	あわネイチャーセラピー協会	株式会社三峰商事 自然の宿 くすのき

# SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業

## 2018 年度～2020 年度まとめ

SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業を 2018 年度から 2020 年度まで 3 年間実施してきました。  
ご協力・ご支援ありがとうございました！

### ■実施事業内容

以下の 3 事業を、千葉県。中央・県北・県南地域で実施しました。

- ① ESD 地域リーダー育成事業 ⇒ ESD の視点を入れた環境学習プログラム作りを通して ESD 地域リーダーの育成
  - ② SDGs を進めるプラットフォームづくり ⇒ 実働するプラットフォームづくりを目指す。
  - ③ 情報の収集と発信・・・ニュースレター発行 HP 報「だより」他
- ※公開セミナー開催：SDGs・ESD の理解促進



### ■実施事業結果

- ① 県内に 44 人育成された ESD 地域リーダーが、地域で活動を継続し広げて行きます。
- ② ESD 地域リーダーが、今後活動を継続していくためには、多様な主体で構成されるプラットフォームが必要であることを共有しました。  
プラットフォーム機能の一つとして、ユースとの連携、地域の自然からの学び、学校との連携、モデルプログラムの活用を今後実施します。

### ■2021 年度以降の事業方針

事業の実施と継続のため、地域リーダーのスキルアップを図りながら、多様な主体と連携、協働し、事業を展開します。⇒ 千葉県内地域拠点（県南・県北・中央）づくり ⇒ SDGs・ESD プラットホームちば ⇒ SDGs・ESD 達成！

### ■2021 年度事業予定

- ① 「ひろげる場」づくり
  - ・千葉県南地域に「SDGs・ESD を広げるための“ちば”南拠点をつくる。
- ② 「ひろげる人」づくり
  - ・SDGs ちばユース活動発表会開催
  - ・学校との連携開催
  - ・ESD の視点を入れた環境学習プログラムの活用
  - ・ESD プログラム体験会実施
- ③ SDGs・ESD 広報活動（セミナー、フォーラム、ニュースレター、HP 作成 他）

発行：特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば <https://kanpachiba.com/>  
お問い合わせ： e-mail: info@kanpachiba.com Tel: 090-8116-4633

この事業は、地球環境基金の助成を受け実施しています

